令和８年度　宇治市献血推進協議会　議事録【概要】

日　時：令和８年７月９日（木）　14：00～15：00

場　所：宇治市役所うじ安心館３階　ホール

出席者：（協議会委員）

金　郁喆委員、山岡すが子委員、高木正直委員、木村龍男委員、
日野真代委員、佐野恵理子委員、森崎勇委員、　森居研太郎委員、
重見博子委員

（京都府赤十字血液センター）

事業推進部　献血推進課　勝藤課長、奥村推進二係長

（事務局）

星川健康長寿部長、堀江健康長寿部副部長
三好小百合課長（事務局長）、横山副課長、三好裕子地域企画係長
奥野主査、中村専門員、井上主事

欠席者：定免享佑委員、松澤計夫委員

【次第】

1. 開会

2. 挨拶

3. 報告

○資料 5-1、5-2 に基づき報告

- 令和８年６月 30 日付で宇治ライオンズクラブ様解散
- 宇治市献血推進協議会委員団体数が 12 団体から 11 団体に変更

以上より、宇治市健康づくり推進課献血推進協議会規約別表団体数変更を報告

4. 役員選出

- 会長に金委員、副会長に森居委員、高木委員、幹事に佐野委員、日野委員を選出

5. 情報提供

『最近の血液事業について』

京都府赤十字血液センター　勝藤課長より別紙資料をもとに資料説明

- 献血の基本理念は、血液製剤を必要としている方の尊い命を救うために、需要に応じた献血血液を安定的に確保し、安全性・品質向上に取り組み、献血者の皆様の想いを届けることである。
- 昨年度は秋冬にやや不足傾向もみられたが、全国的に血液製剤を必要としている方に、しっかり届けることができた。
- 献血は、献血ルームと献血バスが基本。宇治市はバスでの献血が基本となっている。献血からどのように患者様のもとにお届けするかだが、バスでいただいた血液は血液センターに届き、検査・製造まで行い、各都道府県の血液センターで保管し、医療機関からの連絡に応じて届けている。
- 医療機関で主に使われるのは悪性新生物（がん）の治療。抗がん剤治療の副作用で貧血症状等があるため、血液の使用量が増加する。また、白血病などの血液疾患でも多く使用する。
- いただいた血液は、赤血球製剤、血漿製剤、血小板製剤で届けている。有効期間は血漿製剤は 1 年間、赤血球製剤は 28 日間であり、この間で使用している。血漿分画製剤は血液をもとにした薬で、特に自己免疫等の治療等で使われることが多く、免疫グロブリン製剤、アルブミン製剤、血液凝固因子製剤が作られている。血液凝固因子製剤については、100％日本の献血由来だが、免疫グロブリン製剤、アルブミン製剤は薬として海外から輸入している現状にある。
- 血液製剤の需要と供給の推移では、ほぼ横ばいの状況にある。以前は少子高齢化が進み、供給量が増えると言われていたが、医療の進歩により繊細な技法ができるようになり、手術の出血量自体が減少している。しかし以前はあまり行っていなかった 70 代以降の大きな心臓手術など、時代に合わせて手術ができる年齢も上がってきているため、同程度の血液の使用がされている状況にある。
- なぜ 400 ミリを献血バスでお声かけしているかだが、医療機関で 400 ミリの需要が高いためである。血液は人の細胞であり、人の顔が違うように同じA型でも若干違う。多くの方の血液を混ぜてしまうと副作用が起こりやすくなる。かゆみや発熱、重篤な場合は呼吸困難など副作用のリスクを減らすため、少ない人数分での輸血が推奨されている。その意味でも圧倒的に 400 ミリの需要が高い。ただし 200 ミリの献血は、16 歳の女性が献血をスタートできる。献血は若いうちから行うと将来的にも献血を続けていただけるというデータもあるため、将来を考え献血行動の推進を図ることを目的に、200 ミリについては若い方向けに積極的に行っている。
- 今、献血は全国的に見ても 50 代 60 代に主に支えていただいている。少子高齢化の人口構成である程度、やむを得ないところがあるが、50 代以下の世代をどう広げていくかが今後の課題。
- 献血は 16 歳から最終 69 歳までお願いできる。献血率は全国的に 5～6％程度。20 人に 1 人程度で、例えば学校なら同じクラスに 2 人程度。決して多いわけではない。献血に

ついてもっと認知を広めることが大事である。

- 以前は献血カードや献血手帳で自分の献血の管理をしていただいていたが、今はアプリやネットで皆様に管理していただけるようラブラッドでしっかり運用させていただいている。検査結果も、早ければ翌日に献血の結果として、肝機能の数値など様々なものが自分で見られる。過去の数値を遡って見られるため、献血をして頂く方自身の健康チェックにも活用して頂ければと思う。
- 献血は人により敷居が高いと感じる方もおり、薬を飲んでいれば献血できないと思っている方もいる。血圧の薬やコレステロールを下げる薬、痛風の薬などは、飲んでいる方でも問題なく献血できる。ただし、抗生物質や風邪薬などを当日飲んでいた場合、献血はできない。これは、献血をしていただく血液自体の安全性の担保と、献血いただく方自身の健康面の点から、抗生物質などの薬を服用している場合は献血不可としている。
- 京都府の年間献血数は令和 6 年度と 7 年度では大体 11 万人、1 か月に約 1 万人の献血のご協力で成り立っているイメージになる。年齢別では令和 7 年度は、60 代が 18%、50 代が 32%で、50 代以上が半分である。16 歳から 19 歳は、3%から 4%と 1%増加し、少子高齢化が進む中で広報や施策を行った結果、効果が出ている。大体 30～40 代が献血の減少年齢になるため、小学生の夏休み自由研究を対象に、その小学生の保護者の方に対し、取り組んだこども献血ツアーや、おしごと体験の場を企業から声掛けいただき、赤十字の救護活動と献血のスタッフ体験のブースを作ったところ、未就学児とその保護者の方の来所が多くあり、同時に献血にも 70 人程度協力いただき非常に盛況だった。今年度も同様の取り組みを予定している。
- 高校生に対しての取り組みでは高校学内献血をしている。京都には多くの高校があるが、献血バスの受け入れを積極的に協力いただいたのは 3 校だった。テスト期間が終わった日や終業式の日、また卒業式の予行演習という、社会に旅立つ前に献血もという形で受け入れていただけた。ただし 3 校だけということで、全国的にも京都府は少ない状況にあり、各関係方面に相談し自治体やライオンズクラブ様の協力も得て、昨年には 2 校追加で実施できた。2 校とも文化祭に合わせて実施させてもらった。展示に加え献血バスで実際に献血の機会を作り、多くの保護者の方の協力をいただけた。ふだん献血をされていない保護者の方や高校生の生徒の方も来てくれた。
  このような活動に今後も力を入れていきたいため、各方面の皆様方からお声掛けをいただけたら、非常にありがたいと思っている。
- 企業に対しての献血では、アフターコロナでリモートワークを取り入れた大きい会社の献血数は減っている状況にある。以前はスーパーなど街頭での献血でも多くご協力をいただいていたが、コロナ以降、献血者数も街頭献血も少しずつ減ってきている。
- 京都は、大学の献血、高校献血、企業献血の場に、もう一度かじをしっかりと切り直して進めていきたい。平日の献血、毎日の献血のご協力が必要となるため、土日に頼らない献血を進めていかないといけないと考えている。皆様方からのご紹介やお声掛けをお願いできたらありがたい。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

○質疑応答

→　質問なし。

5　議事

（1）令和 7 年度事業実施報告

○資料 1（資料 1-1～資料 1-3）に基づき事務局より報告

○委員より質問、意見等なし

→　令和 7 年度事業実施報告を承認

（2）令和 7 年度収支報告

○資料２に基づき事務局より報告

○委員より質問、意見等なし

（3）令和 7 年度会計監査報告

○資料２に基づき監査委員より報告

○委員より質問、意見等なし

→　令和 7 年度収支報告及び会計監査報告を承認

＜監査委員から意見＞

- 令和 7 年度の監査において感じたことがある。繰越金額がやや高額になってきているように思うため、次年度の事業に有効に資金活用を考えていただいてはどうか。

→　事務局意見：　ご指摘の点は、事務局としても課題と認識している。今年度の予算は事務局として見直ししたものをこの後、提案予定であるが、献血の有効な予算の活用方法については、後でもよいのでぜひご意見をお願いしたい。

→　他に意見なし

→　議事を進行

（4）令和 8 年度事業計画について

○資料 3（資料 3-1、3-2）に基づき事務局より説明

○委員より質問、意見等なし

→　令和 8 年度事業計画を承認

（5）令和 8 年度予算案について

○資料４に基づき事務局より説明

令和 8 年度予算では、宇治ライオンズクラブ様解散に伴い、同クラブよりご提供

をいただいていた記念品分の新規購入や、記念品内容の見直しを図る予定
事務局としては今回の予算案でも、繰越金額については課題があると考えており、主な支出が啓発物品であることから、数年かけて補助金以下の金額で課題解決を図っていきたいと考えている

〇委員より質問、意見等なし
→　令和８年度予算案を承認

（６）その他

＜事務局から意見＞
- 若い方に対しての献血への効果的な取り組みについて調べたところ、データが古いかもしれないが、栃木県は高校生の献血率が 1 番高いという記事を見た。まだまだ京都府では少ないと血液センターがさきほど話されていたが、栃木県では県内の高校の 9 割で学内献血をされているため献血率が高い。昔から学内献血をされているため、保護者の方にも当たり前のように機会があることで献血の実施率が高くなっているとあり、学校での学内献血の場を増やしていくことは効果があると思えた。また、全体の献血一位が北海道というデータを見つけたが、確認したところ北海道では日赤が、車の玩具のトミカと献血バスをコラボし、初めて献血された方にトミカ（ミニカー）をプレゼントするようなことをしていた。先ほどの繰越金の用途の課題の点からも、このようなこれはすごく効果があったという取り組みがあれば、ぜひ血液センターの方に教えていただきたい。

→　献血センター
- 昨年度、大学の献血のときに、予約で献血を協力いただいたらモバイルバッテリーをプレゼントするということを実施した。発火事件の少し前まで行ったが、そのときはいつもの 2 倍から 3 倍の予約があった。また、アニメ関係も強く、例えば宇治市が舞台のアニメ「響け！ユーフォニアム」は若い方から 40 代、50 代ぐらいまで幅広い人気があるが、それとのコラボなどをしたりしている。
- 車の玩具とのコラボは、赤十字では原則献血と売血の区切りをするという点から記念品は安価なものを提供するとしており、1 回の献血でミニカーをプレゼントすることは難しい。我々も試行錯誤して記念品を考えている。日用品は人気があり、管理もしやすい。我々としても、そのような施策をどんどんしていきたいと考えてはいる。
- 高校献血は、昭和の時代には京都でもすでに行っていた。しかしその後、医療機関の需要がある 400 ミリの献血を確保しないといけないという方向に推移した。特に、京都は京大病院、府立医大と、近畿でもかなり有名な、高度医療や大きな手術をする医療機関が多く、400 ミリの需要が非常に高かった。400 ミリ献血優先で献血バスを使用する方向となると、高校献血は 200 ミリとなるため、献血の場として高校献血とは少し距離ができてしまったように思っている。今となっては時代が変わり、若い方に献血を進めないとい

けない状況にある。放した金魚は大きな鯛になり、それを取りに行かないといけない状況のため、近くの高校に行かせていただけるのであれば、お声掛けいただけたら非常にありがたい。

○委員より他に質問、意見等なし

6　閉会

事務局より報告

次回の会議は、来年７月頃の開催を予定